公益財団法人日立市科学文化情報財団

25年のあゆみ

公益財団法人日立市科学文化情報財団

25年のあゆみ

25年のあゆみについて

日立市の科学・文化の振興による創造性豊かな街づくりに寄与することを目的として、平成２年（1990）３月に財団法人日立市科学文化情報財団（平成 24 年 4 月に公益財団法人に移行）が設立されて、平成 27 年（2015）４月に 25 周年を迎えることができました。長年にわたる関係者の皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

この間、日立市科学文化情報財団では、日立市との緊密な連携の下に、日立市内外で活躍する多くの文化団体、文化関係者の皆様と共に科学・文化の事業を実施してまいりました。

特に、事業を展開をするに当たっては、新しい科学・文化を発信するだけでなく、多くの市民の皆様と一緒に手を携え、感動を共感することで明日への事業展開の種蒔きになるように進め、創造性豊かな街づくりの取り組みが進んでいることに確かな手応えを感じております。

財団設立以来 25 年が経過した平成 27 年（2015）４月１日に、日立・多賀市民会館を運営してきた公益財団法人日立市民文化事業団と合併し、公益財団法人日立市民科学文化財団として生まれ変わりました。

少子高齢化、人口減少が進み、財政状況等が厳しさを増すなど時代の変化の中、財団として、人々の繋がりや生きる力を育み、心の豊かさや活力などをもたらす科学・文化の持つチカラを最大限活かした事業展開を行い、新財団のテーマとして掲げております「心豊かなまちづくり」が実現できるよう一歩一歩歩んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

公益財団法人日立市民科学文化財団
理事長　赤津　敏明

ごあいさつ

このたび、公益財団法人日立市科学文化情報財団が設立 25 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

平成２年の設立以来、貴財団には、本市の中心的な文化拠点施設である日立シビックセンターの管理運営や様々なイベントの開催を通して、市民の心豊かな生活とまちの活性化に貢献いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

現在、本市では、人口減少を始めとする様々な社会情勢が変化する中、安心と活力に満ち、笑顔輝くまちづくりを推進するため、自ら地域を創るという考えから、「地域創生」に取り組んでおります。

このような中で、貴財団が、平成 27 年 4 月に公益財団法人日立市民文化事業団と合併して、公益財団法人日立市民科学文化財団として生まれ変わられましたことは、正に自らが地域の将来を見据えた英断として、改めて敬意を表するものでございます。

これからは両財団が培ったそれぞれの強みを生かし、市民とともに、科学・文化の芽を育み、新しい花を咲かせ、まちに創造的なエネルギーが満ち溢れることを期待しております。

結びに、新たに発足した公益財団法人日立市民科学文化財団が、広く市民に愛され、大きく発展されますことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

日立市長　小川　春樹

目　次

ごあいさつ ―― 02
財団概要・沿革 ―― 06

自主企画事業
音楽ホール担当 ―― 11
●市民オペラ事業
●コンサート事業
●日立シビックセンター市民音楽企画事業
●育成事業
●アウトリーチ事業

交流サロン担当 ―― 33
●日本伝統芸能シリーズ事業
●市民交流事業
●イルミネーション事業
●障がい者文化交流事業
●アジア・太平洋文化交流事業
●シビックサロン事業
● The デザイン事業
●劇場シリーズ事業
●イベント PROJECT TEAM やあ

科学館担当 ―― 57
●特別展事業
●科学体験・教室等事業
●青少年育成事業
●天球劇場活用事業
●科学思想普及・啓発事業
●情報化促進事業

経営企画担当 ―― 79
●広報・宣伝事業

概　　要

名　　称　　公益財団法人日立市科学文化情報財団

設　　立　　平成２年（1990年）３月１日
日立市により設立

基本財産　　１億円

目　　的　　市民生活における知的活動、文化活動の高度化、多様化に対応して、科学、芸術、文化等に関する市民交流の活性化を図ることにより、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与する。

事業内容　　⑴　科学思想の啓発及び普及に関する事業
⑵　芸術及び文化の振興に関する事業
⑶　芸術活動、文化活動等を通じて市民の豊かな人間性を涵養する事業
⑷　市民交流の活性化に関する事業
⑸　地域振興の拠点となる公共施設の管理及び運営に関する事業
⑹　その他この法人の目的を達成するために必要な事業

評 議 員　　15 人

役　　員　　理事長、常務理事、理事（11 人）、監事（２人）

沿　　革

平成 2 年（1990 年）3月1日
財団法人日立市科学文化情報財団設立

平成 2 年（1990 年）11月8日
日立シビックセンター開館

平成18 年（2006 年）4月1日
日立シビックセンターの指定管理者として指定を受ける
（平成 23 年 3 月 31 日までの 5 年間）

平成 23 年（2011 年）4月1日
日立シビックセンターの指定管理者として指定を受ける
（平成 28 年 3 月 31 日までの 5 年間）

平成 24 年（2012 年）4月1日
公益財団法人日立市科学文化情報財団へ移行

平成 27 年（2015 年）4月1日
公益財団法人日立市民文化事業団と合併し、公益財団法人日立市民科学文化財団と名称変更。

歴代財団理事・監事・評議員

財団理事・監事就任者一覧

《理　事》

	氏　名	就任年・月	退任(辞任)年・月	就任期間
1	立花留治	H2.3	H4.4	2年1か月
2	飯田　弘	H2.3	H4.4	2年1か月
3	飯塚一雄	H2.3	H9.5	7年2か月
4	石川光男	H2.3	H8.5	6年2か月
5	岡田正勝	H2.3	H24.2	21年11か月
6	川村俊彦	H2.3	H8.5	6年2か月
7	佐川久夫	H2.3	H3.6	1年3か月
8	志田諄一	H2.3	H16.5	14年2か月
9	志村　巌	H2.3	H12.5	10年2か月
10	瀬谷義彦	H2.3	H12.5	10年2か月
11	山本武美	H2.3	H3.6	1年3か月
12	吉田　稔	H2.3	H5.5	3年2か月
13	舟橋　明	H2.3	H3.5	1年3か月
14	牛山元雄	H2.3	H7.10	5年7か月
15	飯山利雄	H2.3	H12.5	10年2か月
16	大都　洋	H2.3	H4.4	2年1か月
17	山口幸蔵	H3.6	H7.5	3年11か月
18	八幡正次	H3.6	H5.5	1年11か月
19	後藤重夫	H4.4	H5.5	1年1か月
20	本橋次雄	H4.4	H8.5	4年1か月
21	大越典一	H4.4	H8.10	4年6か月
22	宮本寿雄	H4.4	H5.5	1年1か月
23	長山　茂	H5.5	H7.5	2年0か月
24	谷　徹也	H5.5	H6.5	1年0か月
25	大和田　稔	H5.5	H7.5	2年0か月
26	松井　淳	H6.5	H7.5	0年11か月
27	中井義法	H7.5	H11.4	3年11か月
28	沼田　勉	H7.5	H9.5	1年11か月
29	茅根茂彦	H7.5	H9.5	1年11か月
30	河井章夫	H7.5	H8.5	1年0か月
		H16.5	H23.12	7年7か月
31	川又　諭	H8.5	H14.1	5年8か月
32	吉成保壽	H8.5	H12.5	4年0か月
33	高畠　俊	H8.5	H14.5	6年0か月
34	犬田誠一	H8.5	H11.7	3年2か月
35	山本博之	H9.2	H17.1	7年10か月
36	宮崎哲雄	H9.5	H14.1	4年7か月
		H16.5	H21.5	5年0か月
37	蛭田　勲	H9.5	H11.5	1年11か月
38	渡部源昭	H9.5	H11.5	1年11か月
		H15.5	H17.5	1年11か月
39	平井洋行	H11.5	H13.12	2年7か月
40	額賀俊彦	H11.5	H14.1	2年7か月
41	小豆畑安男	H11.5	H12.5	0年11か月
42	須田重幸	H11.7	H15.4	3年8か月
43	樫村千秋	H12.5	H16.5	4年0か月
44	中山達之助	H12.5	H22.5	10年0か月
45	大久保　武	H12.5	H20.3	7年10か月
46	武田京子	H12.5	H16.5	4年0か月
47	大貫幸男	H12.5	H18.5	6年0か月
48	西川光世	H12.5	H14.1	1年7か月
		H21.5	H23.4	1年11か月
49	山本忠安	H14.2	H26.4	12年2か月
50	土屋静治	H14.2	H17.7	3年5か月
51	郷　寛幾	H14.2	H15.12	1年10か月
52	江幡敏夫	H14.2	H15.5	1年3か月
53	檜山節男	H14.2	H15.5	1年3か月
54	根本　茂	H14.5	H17.4	2年10か月
55	西田純一	H14.5	H15.4	0年10か月
56	庄司勝久	H15.5	H17.4	1年11か月
57	平　逞仁	H15.5	H18.6	3年0か月
58	村田悦雄	H15.5	H17.5	1年11か月
		H23.5		3年10か月
59	永津　亮	H16.1	H20.1	3年11か月
60	石川嘉美	H16.5	H24.6	8年0か月
61	吉成　明	H17.4	H23.2	5年10か月
62	吉村照夫	H17.4	H20.3	2年11か月
63	白土　明	H17.4	H20.3	2年11か月
64	助川吉洋	H17.5	H19.5	1年11か月
65	樫村英紀	H17.5	H19.5	1年11か月
66	堀越久志	H17.9	H18.11	1年2か月
67	金子　豊	H18.5	H25.5	7年0か月
68	寺崎久哲	H18.6	H20.6	1年11か月
69	館岡　司	H18.12	H24.10	5年10か月
70	石野正美	H19.5	H21.5	2年0か月
71	青木俊一	H19.5	H21.5	2年0か月
72	石田竜也	H20.1	H21.4	1年2か月
73	吉川常英	H20.4	H25.3	4年11か月
74	鈴木壯次	H20.4	H22.3	1年11か月
75	大津俊広	H20.4	H23.3	2年11か月
76	山口　潔	H20.8	H23.6	2年10か月
77	中野紳一郎	H21.5	H22.3	0年10か月
78	小泉行一	H21.5	H23.4	1年11か月
79	佐藤元彦	H22.4	H26.6	4年2か月
80	西野直通	H22.4	H25.3	2年11か月
81	森　秀男	H22.5		4年10か月
82	秋山光伯	H22.12		4年3か月
83	黒澤信弘	H23.5	H25.5	1年11か月
84	中山俊恵	H23.5		3年9か月
85	福地　伸	H23.7	H24.6	0年11か月
86	設楽清知	H23.7	H25.6	1年10か月
87	小川春樹	H24.6	H27.1	2年7か月
88	梶　清志	H24.6	H26.3	1年9か月
89	赤津敏明	H24.6		2年9か月
90	有馬喜代貴	H24.11	H25.12	1年1か月
91	稲田邦彦	H25.4		2年0か月
92	猪瀬幸己	H25.6		1年10か月
93	吉田修一	H25.6		1年10か月
94	金子日出夫	H25.6		1年10か月
95	加茂　明	H25.7		1年8か月
96	家次　晃	H26.2		1年1か月
97	吉成日出男	H26.4		1年0か月
98	小松﨑　寛	H26.7		0年8か月

《監　事》

	氏　名	就任年・月	退任(辞任)年・月	就任期間
1	水庭久尚	H2.3	H12.5	10年2か月
2	星野　章	H2.3	H4.4	2年1か月
3	杉田浩男	H4.4	H8.5	4年1か月
4	小林秀夫	H8.5	H12.5	4年0か月
5	小松重蔵	H12.5	H14.1	1年7か月
6	竹内晶子	H12.5	H24.3	11年10か月
7	中村英樹	H14.2	H15.4	1年2か月
8	富田恭平	H15.5	H16.6	1年1か月
9	黒古一雄	H16.7	H17.7	1年0か月
9	岩波徹雄	H17.9	H19.6	1年9か月
10	佐久間保孝	H19.8	H21.8	2年0か月
11	鳥羽田英夫	H21.8	H23.6	1年10か月
12	大山敬次	H23.7	H25.7	1年11か月
13	阿部喜美子	H24.4		3年0か月
14	河内　潤	H25.7		1年8か月

《顧　問》

	氏　名	就任年・月	退任(辞任)年・月	就任期間
1	飯山利雄	H12.5	H13.6	1年1か月
2	樫村千秋	H16.5	H23.7	7年1か月

財団評議員就任者一覧

《評議員》

	氏　名	就任年・月	退任(辞任)年・月	就任期間
1	大坂昌文	H2.3	H3.5	1年3か月
2	木内祐三郎	H2.3	H3.5	1年3か月
3	窪田　純	H2.3	H4.4	2年1か月
4	黒羽富壽	H2.3	H6.5	4年2か月
5	佐川文雄	H2.3		25年1か月
6	鈴木勝美	H2.3	H13.12	11年10か月
7	関　勝利	H2.3	H10.5	8年2か月
8	反町好男	H2.3	H3.5	1年3か月
		H11.5	H13.12	2年7か月
9	田賀慶子	H2.3	H16.5	14年2か月
10	竹内　彰	H2.3	H12.5	10年2か月
11	塙　ちゑ子	H2.3	H16.5	14年2か月
12	宮本博光	H2.3	H4.4	2年1か月
13	八幡正次	H2.3	H3.5	1年3か月
		H5.5	H9.5	4年0か月
		H14.1	H15.5	1年3か月
14	矢吹定男	H2.3	H4.4	2年1か月
15	山口幸蔵	H2.3	H3.5	1年3か月
16	六島田鶴	H2.3	H24.11	22年8か月
17	渡邊高志	H2.3	H6.5	4年2か月
18	沼田繁明	H2.3	H4.4	2年1か月
19	石川嘉美	H2.3	H4.4	2年1か月
20	前沢　満	H2.3	H5.5	3年2か月
21	武士正員	H2.3	H4.4	2年1か月
22	高畠　俊	H2.3	H8.5	6年2か月
23	佐藤三夫	H3.6	H7.5	3年11か月
24	和地　実	H3.6	H5.5	1年11か月
		H7.5	H11.3	3年9か月
25	長山　茂	H3.6	H5.5	1年11か月
26	井上　清	H3.6	H5.5	1年11か月
27	半井　進	H4.4	H16.5	12年1か月
28	山田英徳	H4.4	H22.5	18年1か月
29	柳橋弘明	H4.4	H6.5	2年1か月
30	尾高憲明	H4.4	H6.5	2年1か月
31	久下谷晃一	H4.4	H6.5	2年1か月
32	勝間田　修	H4.4	H8.5	4年1か月
33	小林　昌	H4.4	H6.5	2年1か月
34	中山達之助	H5.5	H12.5	7年0か月
35	白土仙三郎	H5.5	H7.5	2年0か月
		H14.1	H15.5	1年3か月
36	江尻勝司	H5.5	H7.5	2年0か月
37	白土正一	H5.5	H7.5	2年0か月
38	綿引保彦	H6.5	H7.5	0年11か月
39	小川英敏	H6.5	H7.5	0年11か月
40	白田　肇	H6.5	H8.1	1年8か月
41	山本博治	H6.5	H8.5	2年0か月
42	森嶋　英	H6.5	H7.5	0年11か月
43	須田重幸	H6.5	H11.7	5年2か月
44	沢畠和資	H7.5	H9.8	2年3か月
45	西海和典	H7.5	H10.5	3年0か月
46	大澤康雄	H7.5	H8.5	1年0か月
47	江幡敏夫	H7.5	H9.5	2年0か月
48	大和田　稔	H7.5	H8.5	1年0か月
49	後藤　修	H8.5	H10.4	1年11か月
50	米川　廣	H8.5	H10.4	1年11か月
51	永山堯康	H8.5	H11.5	2年11か月
52	宮本壽雄	H8.5	H11.4	2年11か月
53	根本　茂	H8.5	H12.5	4年0か月
54	河井章夫	H8.5	H10.4	1年11か月
		H14.5	H16.5	2年0か月
55	遠峰駿一郎	H8.12	H16.6	7年6か月
56	沼田　勉	H9.5	H13.12	4年7か月
		H15.5	H19.5	3年11か月
57	佐川久夫	H9.5	H11.5	1年11か月
58	高濱正敏	H10.5	H18.5	8年0か月
59	藤田與一郎	H10.5	H12.5	2年0か月
60	永田　眞	H10.5	H10.11	0年5か月
61	山縣敏史	H10.5	H12.5	2年0か月
62	吉成　明	H10.5	H12.5	2年0か月
63	鈴木庸夫	H11.5	H13.1	1年8か月
64	石野正美	H11.5	H13.12	2年7か月
65	助川吉洋	H11.5	H13.12	2年7か月
66	犬田誠一	H11.7	H14.5	2年9か月
67	北沢　計	H12.5		14年10か月
68	青木正治	H12.5	H16.5	4年0か月
69	志村武彦	H12.5	H14.5	2年0か月
70	西田純一	H13.2	H14.5	1年3か月
71	遠藤　進	H14.1	H17.5	3年4か月
72	西川光世	H14.1	H15.5	1年3か月
73	佐藤　克	H14.1	H15.5	1年3か月
74	高橋睦治	H14.5		12年10か月
75	工藤豊子	H14.5	H16.5	2年0か月
76	末松倫枝	H14.5		12年10か月
77	鈴木邦男	H14.5	H15.4	0年10か月
78	大平隆義	H15.5	H16.5	1年0か月
79	青木俊一	H15.5	H19.5	3年11か月
80	薄井五月	H15.5	H17.5	1年11か月
81	中川雅子	H15.5	H17.5	1年11か月
82	大塚　清	H16.5	H17.4	0年11か月
83	相良　浩	H16.5		10年10か月
84	百目鬼孝夫	H16.5		10年10か月
85	日渡貴夫	H16.5		10年10か月
86	村尾勝衛	H16.5	H18.5	2年0か月
87	森　紀生	H16.5	H26.5	10年0か月
88	森田清明	H17.2	H23.6	6年4か月
83	鴨志田勝雄	H17.5	H21.5	3年11か月
84	小泉行一	H17.5	H21.5	3年11か月
85	伊藤智毅	H17.5	H19.5	1年11か月
		H23.5		3年10か月
86	柴田　彪	H17.5	H18.5	0年11か月
87	堺　昌彦	H18.5	H22.5	4年0か月
88	佐藤哲夫	H18.5	H19.5	0年11か月
89	後田洋子	H18.5		8年10か月
90	樫村英紀	H19.5	H20.6	1年0か月
91	大庭弘美	H19.5	H21.5	1年11か月
		H25.6		1年9か月
92	齋藤　晃	H19.5	H20.3	0年10か月
93	岡部光雄	H20.6	H21.5	0年11か月
94	柴田和彦	H21.5	H25.5	4年0か月
95	青木俊一	H21.5	H25.5	3年11か月
96	舘野清道	H21.5	H23.5	1年11か月
97	蛭田三雄	H21.5	H25.5	3年11か月
98	清水　優	H22.5	H26.3	3年10か月
99	島津利幸	H23.7		3年8か月
100	黒澤信弘	H25.6		1年9か月
101	志賀勝弘	H25.6		1年9か月
102	松本　宏	H26.4		1年11か月
103	小澤紀夫	H26.7		1年7か月

（平成27年3月31日現在）

理事長

立花留治	H2.3.1－H4.4.2
飯山利雄	H4.4.2－H12.5.24
樫村千秋	H12.5.24－H16.5.23
石川嘉美	H16.5.24－H24.6.21
赤津敏明	H24.6.21－

音楽ホール担当

新都市広場が、一夜限りの夢舞台へ

ひたち野外オペラは、平成 13 年の第 1 回公演《トゥーランドット》以来、《カルメン》《アイーダ》と回を重ね、平成 27 年 8 月 22 日に「日立シビックセンター開館 25 周年記念事業」として 4 回目となる《マクベス》を公演いたしました。市民と専門家、財団とが一体となり公演を創り上げ、たくさんの方に感動を与えてきました。計り知れない可能性に満ちた市民のエネルギーほとばしる夢の舞台が、日立シビックセンター新都市広場から全国に向けて発信されました。

ひたち野外オペラ第４回公演《マクベス》

ひたち野外オペラ第４回公演《マクベス》総合プロデューサー　原田　実能

オペラによるまちづくりへの可能性を信じて小さな動きが 24 年前に始まりました。そして！積み重ねられた時間と経験の土台の上で、この度（25 周年というタイミングで）７年ぶりに～ひたち野外オペラ第４回公演《マクベス》～を開演する事ができました。舞台の表で表現する人たち、舞台の裏で支える人たち、新都市広場の野外会場に集まってくださったみなさま。その場にいるすべての人たちがオペラでつながって共鳴しあった、一座建立の素晴らしいひと夏の夜の夢舞台となりました。

このオペラ公演にあたって特別に大切にした思いは、原点である「オペラによるまちづくり」でした。そして…まちづくりを「つながりあって共鳴しあうこと」と位置づけて取り組みました。そして、この公演で改めて感じた事は、日立というまちの持つ芸術文化のポテンシャルの高さです。土台として継続開催してきた「ニューイヤーオペラコンサート」と「子どもオペラ学校」。そして日立市民による合唱団そしてオーケストラや吹奏楽団、舞踏団や劇団…そしてシビックセンターの存在。さらに、音楽スタッフ・舞台スタッフ・制作スタッフみなさんの存在があって始めて実現できた野外オペラです。

私たちのまち日立は「日」が「立」つと書いて『音』になるまち。今後は、この素晴らしい人材や組織力が強化され「“音楽”を通してのまちづくり」に拍車がかかって行く事を願っています。

ひたち野外オペラ

第１回　プッチーニ作曲《トゥーランドット》
（平成 13 年８月 18 日）

第２回　ビゼー作曲《カルメン》
（平成 17 年８月 20 日）

第３回　ヴェルディ作曲《アイーダ》①
（平成 20 年 11 月１日）

第３回　ヴェルディ作曲《アイーダ》②
（平成 20 年 11 月１日）

第４回　ヴェルディ作曲《マクベス》①
（平成 27 年８月 22 日）

第４回　ヴェルディ作曲《マクベス》②
（平成 27 年８月 22 日）

新年の幕開けは心に響くひと時を…

ニューイヤーオペラコンサートは、日立の新年の風物詩として、オペラの楽しみ方や魅力を紹介してきました。これまで、一流のソリストや合唱、アンサンブル、舞踊、俳優の方々が出演し、平成 29 年 1 月の公演で記念すべき 20 回目となります。

初めてオペラを観る方、何度もご覧になられている方まで、毎回楽しめる内容を企画しております。

これからも、歌とオーケストラが奏でる豊潤なハーモニーを、ニューイヤーオペラコンサートでお楽しみください。皆さんのご来場をお待ちしております。

ニューイヤーオペラコンサート

ひたち市民オペラによるまちづくりの会　武田　京子

1996 年の新年、日立では初めて「ニューイヤーオペラコンサート」が行われた。指揮は星出豊氏、ソリストには日本のオペラ界で活躍していたソプラノの佐藤ひさら氏など 6 名、芸術監督の大賀寛氏は、初回から 7 回まで続き、日立のオペラを牽引された。

以降、指揮は水戸市出身の山上純司氏、山舘冬樹氏、高野秀峰氏、大浦智弘氏があたり、茨城大学名誉教授の臼井英男氏が（2012、2013 年）芸術監督を務めた。出演者もプロの歌い手だけではなく、日立出身の歌い手も出演できるようにと、ひたち市民オペラを育てる会（前組織）の役員が、大賀氏を訪ね話し合いをしたことが忘れがたい。その後、日立出身の歌い手も出演するようになり、「ニューイヤーオペラコンサート」は、更に愛され親しまれるものとなっていった。

今後は、プロデューサーや演出家、舞台監督なども地元から、特に若い方々の活躍を望みたい。「ニューイヤーオペラコンサート」は、陰で支える多くの人たちの地道な働きがあった。今年も更に飛躍の年として発展して欲しい。

オペラでつながる人と人
オペラから始まるまちづくり

ひたち市民オペラによるまちづくりの会は、平成５年に「オペラ懇親会」を前身として発足し、オペラを通して地域の芸術文化の活性化によるまちづくりを行ってきました。その後名称を「ひたち市民オペラを育てる会」に改め、オリジナルの創作オペラや、日立で初となる野外でのオペラ公演を実施。平成 15 年には現在の「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」となり、４度の野外公演をはじめ、オペラに関する様々な事業を行い、オペラによるまちづくりを行っています。

各地で活動しているオペラ関係者と交流し情報を交換する全国オペラフォーラム

オペラ公演で使用する衣裳の製作ワークショップ

オペラ公演の受付やおもてなしを担当するフロントスタッフチーム

音楽だけでなく、演劇でオペラを広報する PR 演劇事業

「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」

ひたち市民オペラによるまちづくりの会副会長　大津香津子

日立シビックセンターを拠点としました「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」は、市民の手によるオペラの制作を通したまちづくりを推進し、人材の育成、事業や人との繋がりを目的として活動してまいりました。大きな事業としては、毎年恒例の「ニューイヤーオペラコンサート」、長期間にわたる「子どもオペラ学校」、そして過去４回開催された「ひたち野外オペラ」公演があります。市民の役割として、サポートスタッフ、広報、衣裳・道具等のチームを置き、プロの指導の下人材育成を図っています。各チームは密に連携をとり、オペラ制作講座、研修ツアー、コンサートのアウトリーチ、イベントでのＰＲ等を行い、また広報誌の発行によって情報を発信しています。文化は人と人を繋ぎ、心を豊かにするものです。総合芸術と言われるオペラは、多くの人の力が必要で大勢を巻き込みます。人や事業との繋がりなしには成り立ちません。今後もこの活動を通し、様々な分野の方々と関わりあいながら事業の継続を目指して行きたいと思います。

第１回子どもオペラ学校
成果発表公演より

歌・演技・舞踊・美術
「オペラ」に必要な様々なことを体験
やりとげる感動がオペラにはあります。

発声法を身に着けながら声をつくり、演技の基礎を学びながら歌の持つ感情を歌い、活き活きとした姿勢で楽しむダンスを通して、自らの創造性・想像力を学び体験する場「子どもオペラ学校」。一人一人が持つ達成感、心と心のハーモニーは、次代を担う子どもたちの心を豊かに育み、日立に新たな文化の礎石を築きます。

第２回子どもオペラ学校
成果発表公演
（平成 19 年９月開校）

第４回子どもオペラ学校
参加者募集
（平成 23 年２月開校）

第６回子どもオペラ学校
参加者募集
（平成 25 年９月開校）

第８回子どもオペラ学校
参加者募集
（平成 28 年３月開校）

未来を創る事業「子どもオペラ学校」

ひたち市民オペラによるまちづくりの会　三浦　信孝

シビックセンターオペラ事業の中には多くの事業が存在しています。「野外オペラ」「ニューイヤーコンサート」、広報 etc。それらの中でも未来の日立市のオペラを担ってくれる子どもたちを育てていく「子どもオペラ学校」の存在はとても有意義な事業だと思います。計８回の学校を実施しており、平成 28 年３月からは新規題材のオペラ《魔笛》に取り組みました。音楽や踊りの大好きな子どもたちがプロの指導者のもとオペラを学び舞台を作り上げていきます。市内外の違う小中学校に通う子どもたちが一緒に一つの目標に向かっていく姿は、いちスタッフとして関わる私でも真剣な子どもたちから習うべきものが多々ありました。

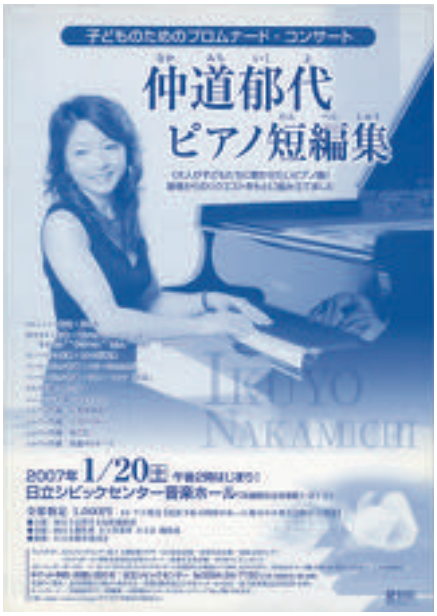
初期の卒業生は大学生や社会人として活躍していますが、その子たちが機会あるごとにオペラ学校のサポーター的役割として参加してもらえることはこの学校の目的の一つだと思います。個人的には純粋に日立のスタッフだけでオペラの舞台を作り上げてみたいと思っていますので、このオペラ学校で育った子供たちが何らかの形で、舞台の上で、舞台の袖で、裏方として、関わってもらえることを強く望んでおり、ぜひ一緒に市民の皆さんにその舞台を見てもらいたいものです。

開館 20 周年記念　洋楽文庫
「中村紘子」「神尾真由子」

魅力あふれるアーティストたちによる名演の数々
温かく繊細な響きを伝えます。

文庫本を手にするような感覚で音楽を楽しむ「洋楽文庫」、子どもたちが遊んで楽しめる音楽遊園地のエントランス「子どものためのプロムナード・コンサート」「日立ゆかりの音楽家による子ども招待音楽会」、冬の夜にきらめく「イルミネーションコンサート」、音楽空間を楽しむコンセプト「レコメン!!」。

魅力あふれる演奏家たちが奏でる名演が、一年を通じ繰りひろげられています。



子どものための
プロムナード・コンサート
仲道郁代
（平成 19 年 1 月 20 日）

洋楽文庫
上原彩子
（平成 20 年 12 月 19 日）
佐藤美枝子
（平成 21 年 3 月 7 日）

子どものための
プロムナード・コンサート
栗コーダーカルテット
（平成 23 年 1 月 29 日）

ヒタチスターライトイルミ
ネーションコンサート
手嶌　葵
（平成 24 年 12 月 7 日）

洋楽文庫
前橋汀子
（平成 26 年 8 月 17 日）
朴　葵姫
（平成 26 年 9 月 15 日）
イェルク・デームス
（平成 26 年 11 月 24 日）

レコメン !!
エミ・マイヤー
（平成 27 年 6 月 12 日）

東京交響楽団
三大交響曲
《未完成》《運命》《新世界より》
（平成 26 年 8 月 2 日）

日立でしか聴くことのできないプログラムで
オーケストラの迫力を体感

オーケストラ公演では、リクエストで決めたクラシック、ミュージカルやスクリーンミュージックなど親しみやすいテーマを心がけ、日立でしか聴くことのできない内容にアレンジしコンサートプログラムをお届けしています。

ステージを客席が囲み、会場全体が一体になれるクラシック専用ホールでは、どの場所から聴いても美しい響きを味わえます。

日本そして世界を代表するオーケストラが奏でる色彩豊かな音色、その迫力を心ゆくまでお楽しみください。

新日本フィル
迫　昭嘉・村治佳織
（平成 19 年 10 月 23 日）

ベルリン放送交響楽団
（平成 21 年 2 月 12 日）

日立シビックセンター開館
20 周年記念
国立ノーヴァヤ・ロシア
交響楽団
（平成 22 年 5 月 12 日）

ロシア・ナショナル管弦楽団
（平成 24 年 6 月 29 日）

東京フィルハーモニー
交響楽団特別演奏会
（平成 25 年 2 月 2 日）

早稲田大学フィルハーモニー
管弦楽団日立公演
（平成 25 年 12 月 8 日）

ひたちゆかりのアーティストが音楽ホールに春の訪れを感じさせてくれます。

多方面で活躍するひたち出身の若手演奏家を広く紹介する機会として、毎年春風の心地よい季節に開催。

クラシック音楽を中心に、日本の伝統音楽なども取り入れるなど、毎回バラエティにとんだ構成は、アコースティックな音色にぴったりな音楽ホールの特性に見事にマッチングしています。

将来にわたり、日立市の音楽文化の向上にかかわっていただけるよう、そのネットワークづくりに努め、若手演奏家の今後の活動と広がりを期待する事業です。

日立シビックセンターと共に歩んだ「音楽の園」

「音楽の園」実行委員会副委員長　鈴木　範之

日立シビックセンター開館 25 周年へのお祝いを、開館翌年から共に歩んできた、ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」の経緯を記すことで祝詞に換えさせていただきたい。

前身である「音楽の森」から数えると、「音楽の園」は2015 年で第25 回を迎えた。東日本大震災のあった 2011 年を除き、1991 年から毎年行われてきた。2015 年までで延べ 98 名のひたち出身音楽家が出演。邦楽、管弦打、ピアノ、声楽、アンサンブル、ジャズ、作曲など、幅広いジャンルのアーティストを紹介してきた。

歴史を俯瞰すると、その趣旨は「ベテラン演奏家の紹介」から「若手演奏家の紹介」へ、そして「若手演奏家の育成」へと変化している。演奏家はステージ経験を積むことで成長する。演奏家の成長が街の音楽文化の向上に繋がる。その機会を提供することが「音楽の園」の責だと考える。

日立シビックセンターが今後益々発展することを祈念し、共にまちづくりの一端を担えるよう尽力していきたい。

音楽ホール担当　ひたちの春音楽祭
日立シビックセンター音楽シリーズ
日立シビックセンター　市民音楽企画

ひたち室内楽フェスティバル アンサンブルの祭典 記念オーケストラ演奏会

最高の響きでアンサンブルをたのしむ。たしなむ。

市民企画として発足した「ひたち室内楽フェスティバル」、「アンサンブルの祭典」は、室内楽の公開レッスンを主軸に、コンサート、楽器展示、交歓会などを実施。また子ども対象のワンポイントレッスンを行うなど若い世代の育成にも力を注ぎ、アンサンブルを通し人々の心をつなぐ事業として日立シビックセンターの歩みと伴に取り組んできました。事業の集大成として立ち上げた市民オーケストラでは、開館 25 周年を記念しプロの音楽家と共演したオーケストラコンサートで多くの方に好評を頂きました。

音楽のちからに支えられ

ひたち室内楽フェスティバル実行委員会委員長　戸来　和子

日立のシンボル『日立シビックセンター』内のホール・音楽室を含む全てを会場とし、超一流の講師陣を迎えて行われるアンサンブルの公開レッスン、講師の先生方による素晴らしい演奏会…この贅沢な企画は音楽愛好家による市民企画として、シビックセンター開館とともに『ひたちの春・音楽祭』の一環として歩んで参りました。これまでに、北海道～広島県からと全国より多数の皆様にご参加頂き、振り返りますと、まさにシビック開館と同じ 4 半世紀、25 周年を迎えました。その間、シビックセンターアトリウムコンサートや日立駅での駅コンサートも立ち上げ、今に至ります。平成 28 年 1 月には、25 周年記念として日立初・市民オーケストラ演奏会も実現し、また新たな第 1 歩を踏み出しました。この企画の趣旨のごとく、色々な立場から音楽を《愉しむ》全ての方々とその【魅力】を共有したい！それが変わらぬ願いです。

第１回"ひたちの春"音楽祭チラシ

日立市民が音楽を考え音楽を伝える。ひたちの春に音楽があふれ、人が集います。

市民企画による音楽の祭典。ソロ演奏、合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラなど、あらゆる音楽を楽しめる春の風物詩「ひたちの春音楽祭」としてスタートしました。音楽を通してのまちづくり、また音楽を愛する市民を応援する企画として、多くの市民が参加し、市民の集う音楽祭として親しまれました。

HITACHI SPRING '92 MUSIC 第1回 FESTIVAL "ひたちの春"音楽祭

平成４～14年
ひたちの春音楽祭

日立シビックセンター 音楽シリーズ 2003

平成15～22年
日立シビックセンター
音楽シリーズ

日立シビックセンター 市民音楽企画2011

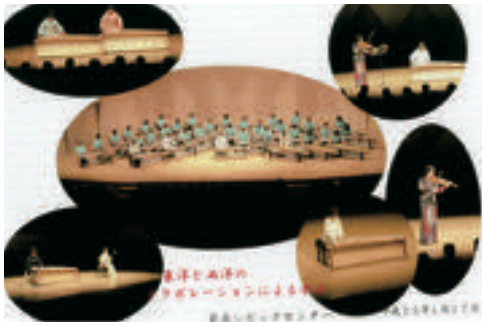
平成23～
日立シビックセンター
市民音楽企画

日立市民吹奏楽団演奏会

日立交響楽団演奏会

合唱コンサート

“つぶてソング”合唱の集い



東洋と西洋のコラボレーション

アマールと夜の訪問者たち

ピアノアンサンブルコンサート VIVA!! ピアノデュオコンサート ぴあのぴあの

誰もが一度は触れたことがあるはずの楽器。ピアノの素晴らしさを届けます。

ピアノを様々な角度から掘り下げ、幅広い層の方に「ピアノ」というものを楽しみながら知っていただく事業としてピアノアンサンブル～デュオコンサートを行ってきました。また公開レッスンや、チェンバロを使ったワークショップなど気軽に参加できる内容をお届けし、「ピアノ」という楽器の良さ、ピアノ音楽への興味・関心を広げる機会として親しまれてきました。

ピアノの魅力を伝えるコンサート

ぴあのぴあの実行委員会　若島　淑子

1990年に開館したシビックセンターには、スタンウェイ、ベーゼンドルファー、ヤマハの三台のフルコンサートピアノとチェンバロが備えられ、これらのピアノを使った企画を開催することになりました。

1992年、第1回ピアノアンサンブルコンサートが開催され、公開講座、オーディション合格者とプロの演奏家による連弾、2台ピアノのコンサートは第10回まで続き、県外まで広く知られるようになりました。2003年、“VIVA!! ピアノデュオコンサート”と改め、ワークショップ、公開レッスン、トークコンサートが2009年まで開催されました。2011年、新たに“ぴあのぴあの実行委員会”を発足し、「ピアノのしくみ」、「ピアノの歴史チェンバロ編」、「ピアノの歴史フォルテピアノ編」の体験型コンサートを開催しました。2014年には「ピアノの歴史Ⅱ」をスタートし、今後もピアノの楽しみを皆様にお伝えすることを目指しています。

ホールコンサート

レッツブラスinパティオ

新緑の青空のもと、始発の広場から終点の音楽ホールまで、様々な音楽を奏でる駅に停車してきました。

ゴールデンウィークに開催され、毎年多くの音楽愛好者が参加する「ミュージックトレイン」。

参加者が演奏を通して交流を深め、気軽に音楽に接する機会を設けることで演奏することの楽しさと、市民音楽の素晴らしさを伝えてきました。演奏者育成のためクリニックを開催するなど、県北地区の音楽文化の発展に寄与してまいりました。

年齢の垣根をこえて日立の市民音楽がより豊かに育つよう、これからも進んで行きます。

音楽活動の拠点としてのシビックに!

レッツ・ブラスinパティオ推進委員会委員長　青羽　誠

日立シビックセンター開館25周年、心より祝意を申し上げたい。現在の活動の一つに「ミュージックトレイン」がある。2部構成の第1部「レッツ・ブラスinパティオ」に関わっている一人としてその経緯と現状、今後について述べてみたい。

以前、ある新聞に掲載された見出し“155人編成の大吹奏楽団コンサート”の通り、野外で中学生から大人までが一緒になって演奏するのがレッツ・ブラスの魅力であろう。ここ数年は県北地区の高校生たちが中心である。自ら企画をし、アイディアを出し合って運営している。学校間の情報も好感され2015年には「吹奏楽交流会」を実施することもできた。

ここでの交流がやがてレッツ・ブラスを、引いてはシビックセンターを多方面から支援し、活性化していくものと信じている。参加(演奏)する生徒の増加、演奏曲の選定、ＰＲのあり方等の課題があるが、それらを乗り越え、将来の音楽活動の担い手を育成するシビックセンターが音楽による日立の街づくりの中核となることを期待したい。

ひたちジュニア弦楽合奏団

溢れる情熱を、音楽にのせて。

ひたちジュニア弦楽合奏団は、音楽を愛する市民の思いと願いを込めて、平成４年にスタートしました。

年２回の演奏会や、合宿、地域でのミニコンサートなどの活動を行っています。

平成 26 年から大学生を中心とした卒団生による「OB アトリウムコンサート」も開催。

音楽を演奏する楽しさやチームワークを学びながら、将来日立の音楽文化を担う子どもたちが元気に活動を続けています。

ジュニア弦楽合奏団とともに

ひたちジュニア弦楽合奏団指揮者　蒲生　克郷

ひたちジュニア弦楽合奏団が誕生したのが平成４年。今年でその活動は 25 年目に入る。その間、活発な活動を展開し、時には管楽器の応援を得て古典のシンフォニーの演奏や、ジュニアのソリスト、ＯＢのソリストによるコンチェルトなども実現してきた。今でこそあちらこちらにジュニアオーケストラや合奏団が存在するが、これだけ長きにわたって着実な活動をし、歴史を積み重ねてきた団体は日立市にとっても誇りになるものだろう。私がこの団体と関わるようになって久しいが、その間にも音楽の関わりを人生の大きな宝物にして巣立っていった人たちのなんと多いことか。楽器に携わり、練習、演奏会を経験することはもちろんだが、ジュニア弦楽合奏団での体験が、その後の人生をより豊かにできることこそ、この団体が存在している大きな意義だろうか。現在は初めて楽器を始めてまだ１、２年の若きメンバーが中心だが、何年か後にはまた素晴らしいメンバーに、きっと成長していることだろう。

学校訪問コンサート・アトリウムコンサート・アトリウムパフォーマンス

たくさんの人に触れ、たくさんの人が感じ、そしてたくさんの人が芸術へと。

多くの人に音楽と接する機会、生演奏の素晴らしさを感じてもらう機会としてアトリウムや市内の施設でコンサートを開催。市内外から多くの方がアトリウムコンサートに出演し、シビックセンター１階のロビー空間に生演奏がひろがりました。また小学校や、公共施設へは学校訪問コンサートとして生演奏を届け、音楽をとおしてたくさんの方とふれあうことができました。平成 25 年度から開始した「バギーコンサート」、「アトリウムパフォーマンス」、他事業との関連付けによるワークショップや演劇・朗読等も実施し、新たな事業展開の可能性に繋げています。

交流サロン担当

全国にも類を見ない大ステージで郷土芸能の感動をお届けします。

ひたち秋祭り～郷土芸能大祭は、日本の郷土民俗芸能の素晴らしさを体感していただく、日立の秋の風物詩です。

特に、多くの観衆を集める屋外大ステージは、伝統芸能の公演としては、全国でも類を見ない規模を誇ります。時に幻想的に、時に情熱的に芸能の魅力を引き立てるシチュエーションを生み出しています。

出演は全国各地の郷土芸能を伝承する団体や、地元の団体、芸能に取り組む青少年。地域の誇る芸能と、市民の熱意あふれる演技を堪能できる二日間です。

金灯籠を頭上に掲げ、艶やかな舞で幻想的な世界を生み出した熊本県の山鹿灯籠。（第 25 回）

平成 17 年、日立シビックセンター開館 15 周年記念・ひたち太鼓フェスティバルとして、日立太鼓連盟６団体が熱演。（第 15 回）

平成 15 年、新都市広場の夜に、金色の稲穂が輝き、圧巻の妙技を披露した秋田竿燈。（第 13 回）

東日本大震災のあった平成23年。甚大な被害を受けながらも、芸能を絶やさず、熱い心意気を披露した岩手県大船渡市の浦浜念仏剣舞。（第 21 回）

多くの人々が集い、25 年間、伝統芸能の醍醐味を伝えてきました。

初回は薪能と創作フラメンコの公演からはじまり、２回目は大田楽、３回目から全国の郷土芸能団体をお招きし、これまで 100 を超える芸能を紹介してきました。

また、地元団体が日ごろの活動の成果を披露する機会となっており、芸能団体も結成され始め、今も継続して活動しています。さらには、回を重ねるごとに新しいことに試み、保育園、中学生が伝統芸能に取り組み、元気、若さあふれる姿が見られるようになりました。

本大祭は、25 回の回数を重ね、日本の芸能をとおして、多くの人々が芸能に親しみ、地域に愛着を持てるような祭りづくりの場となっています。

平成４年、中世において芸能の主流となっていた田楽を平成の世に蘇らせる「大田楽」開催。（第２回）

平成７年、日立シビックセンター開館５周年記念。日立さんさ踊り初披露。（第５回）

北海道稚内南中学校から直伝され、後に歌手・伊藤多喜雄氏に学校名を入れて歌っていただき、名実ともに自らの芸能となった、久慈中学校の久慈中ソーラン。

日立市と十王町の合併を機に地元の特色を生かして創作された十王中学校の十王鵜鳥舞。

平成 21 年、日立市市制 70 周年記念事業となる。ユネスコ無形文化遺産となって初めての日立風流物公開。（第 19 回）

沖縄県で多くの実績を誇る園田青年会のエイサーを民族歌舞団荒馬座を通じ始まった河原子中学校の河中エイサー。

岩手県の三本柳さんさ保存会連中の交流から始まり、現在では生徒自身が伝統を築いている日高中学校の日高中さんさ。

次代を担う世代が伝統芸能の楽しさを体験し、心を育む機会を創出しています。

市内の保育園・認定こども園の園児たちは、「荒馬踊り」を体験し、日ごろから元気に日本古来の音楽、踊りに親しんでいます。

また、市内公立中学校の生徒も伝統芸能に取り組むようになり、現在では４校の生徒が、先輩から後輩へと各々の芸能を受け継いでいます。出演した生徒からは、学校の伝統を守り、皆で一つの目標に向かう団結力を築くことができたという声が多く聞こえています。

出演する子どもたちが、芸能が持つ力を体感しながら成長し、次代への期待が高まること、そして、「日立の伝統芸能」として文化が育まれていくことも、この大祭を開催する意義となっています。

首都圏で伝統芸能の公演活動や国際交流などを行っているプロの団体「民族歌舞団荒馬座」の協力のもと、子どもたちや青少年に芸能の楽しさを感じてもらい、郷土の新しい芸能文化を育てています。

黒潮太鼓指導

十王鵜鳥舞指導

河中エイサー指導

日高中さんさ指導

芸能が花咲く日立の未来

「ひたち秋祭り～郷土芸能大祭」プロデューサー　狩野　　猛

今まで秋祭りに数多くの郷土芸能団体が出演してくれました。節目となった25回目の開催では、遠くは熊本から、島根から共にバスで20時間掛け車中泊という心身の疲労をものともせず、華麗で勇壮な芸能を新都市広場で披露してくれました。謝礼も無く実費のみで、経済的にも保存会の方に負担を掛けてしまうこの秋祭りになぜ来てくれるのでしょうか。

秋祭り出演後多くの保存会の方たちの感想として

①屋外であんな大きな舞台で踊れたことが嬉しかった。楽しかった。

②観客のみなさんがじっくりと自分たちの芸能を楽しんでくれているのが分かるのでいつも以上に頑張って踊った。

③到着から出演、見送りまでスタッフのみなさんの対応が素晴らしく、不安なく演舞に集中できた。そして異口同音に「来て良かった」「また呼んでください」と言ってくれました。

長年郷土芸能に関わってきた者としてこの感想に嘘は無く、本当に喜んでくれていることを強く感じています。「また呼んでください」と言って帰っていった団体が戻ってから日立の出来事を話していて別の団体に交渉に出かけたとき「あー、日立さんですか○○から聞いています。是非行った方が良いと言われました」と交渉がスムーズに進んだことが数多くありました。

郷土芸能団体は自分たちの芸能に使命感と誇りを持っています。その人たちが地理的・経済的な負担を乗り越えてきてくれるのは、日立の市民のみなさんが郷土芸能を真に愛し尊敬をもって接してくれていることの証だと思います。

芸能は花と同じく感動の種が各地に飛びその地域に根付き、土壌に合った姿かたちに変化し咲き誇ります。日立でもそのような芸能の新しい花を咲かせる土壌が出来つつあるのではないでしょうか。

本格的な能舞台で
日本の伝統芸能に触れてみる！

市民のみなさまの声でできた能舞台。組み立て式ですが本格的な舞台です。なかなか目にすることがない能舞台で当代の優れた能楽師による公演を、市内の能楽各流派の方々でできた市民のための能を知る会のみなさんとともに開催してきました。狂言教室では、高校生を対象に開催し、能舞台に立って狂言の所作を体験するなど、青少年に日本の伝統芸能に触れる機会を提供してきました。

第７回新春ひたち能と狂言（平成９年）
能「安宅」。弁慶の迫力が感じられます。

第 24 回狂言教室（平成 27 年）
高校生が能舞台上で声を上げて泣く所作を体験しました。

日本の伝統文化で、会場が笑いに包まれる

ひたち納涼寄席は、落語だけでなく、漫才や手品、音曲、曲芸など、バラエティに富んだ番組で構成されます。会場は絶えず笑いに包まれ、夏の暑さを忘れるひとときとなります。もちろん、飲食も可能で、寄席の雰囲気を高める「シビック寄席茶屋」を用意しており、こちらも楽しみの一つです。

また、初春落語会では、日立ではおなじみとなった初音家左橋師匠をはじめ、実力派の噺家が出演し、新春の恒例行事として市民の皆様に愛されています。

ひたち納涼寄席（平成 24 年）
夏の暑さを笑いで吹き飛ばす寄席公演です。

キッズ落語（平成 20 年）
噺家に稽古をつけてもらった子どもたちが一席ずつ披露しました。

ひたち国際大道芸

まちが劇場と化す２日間。
一流のアーティストが多くの人々を笑顔にします。

ひたち国際大道芸は、海外や日本で活躍する大道芸アーティストが出演し、芸術文化としての大道芸の魅力を多くの方々に知ってもらう、国際色豊かなフェスティバルです。

これまで、国際の名にふさわしく海外５大陸 20 数ヶ国からのゲストと、国内でも選りすぐりのアーティストが出演し、質の高いパフォーマンスが披露されました。

当時は、店舗の軒下で実施していたものが、今や数え切れないほど、まちに人があふれ、日立市を代表するイベントとして定着してきました。

かつては交通規制もなく、駐車場が演技ポイントの一つになっていました。当初から、これまでの大道芸の認識を覆す、多彩なパフォーマンスが披露されました。

大道芸アーティストとのふれあいも醍醐味の一つ。この出会いがきっかけでファンになることも。子どもから大人まで、幅広い世代の方々の笑顔が絶えません。

多くの人々が日立に集まり、
まちを元気にする日立ならではの大道芸フェス。

欧米におけるフェスティバルでは、地域振興や経済効果にも大きく貢献しており、そのノウハウや発想を導入し、市や商店会、企業、市民ボランティア等と連携し、まちの賑わいづくりにつなげています。

また、大きな特徴として、初日に日立、翌日に多賀（JR 常陸多賀駅前周辺）と、２日間、会場を変えて開催するフェスティバルは国内でも珍しいものとなっています。さらに、近年、各地の大道芸フェスティバルでも行われるようになった夜の大道芸「夜会（やかい）」は、世界で初めて実施したものです。

多賀会場のフィナーレを飾る、アーティスト総出で軽快な音楽にあわせて繰り広げられるパレード。最後まで大道芸の楽しさを存分に味わえるプログラムです。

大道芸キャラクター「クレールさん」をモチーフとした、大道芸オリジナルブランド商品も誕生し、地元企業や飲食店も大道芸の雰囲気に合わせて参加しています。

子どもたちがキッズスタッフとしてピエロに変身し、来場の皆様を、お出迎え。中学生、高校生になってからもボランティアスタッフとして関わる市民もいます。

公式ガイドブックに掲載した「芸人ひたち紀行」では、大道芸アーティストが日立のまちを巡って魅力を紹介し、当市のイメージアップにつなげてきました。

「芸術文化の市民化を目指して」

ひたち国際大道芸プロデューサー　橋本　隆雄

ひたち国際大道芸は、今年 25 回目の開催になります。途中、年２回開催の年もあって、日立シビックセンターの開館と同年にスタートした訳ではありませんが、日立シビックセンターの主催事業として、シビックセンターと共に発展し成長してまいりました。今は、日立市民、近隣の諸都市の人々のみならず、北は北海道、南は九州、沖縄からも観客が訪れる、全国に知られたフェスティバルになりました。又、私が平成 25 年度の芸術選奨文部科学大臣賞を芸術振興部門で受賞したことで、ひたち国際大道芸の成果が国家的にも認知されたという確信を得ることが出来ました。出演アーティストは、海外ゲストとして、アメリカ、カナダ、フランス、イギリス、オランダ、デンマーク、イタリア、スペイン、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、セネガル、ガーナ、イスラエル他、国際大道芸の名に恥じない多彩なアーティストが出演しました。現在我が国には約２万人の大道芸人がいます。そのほとんどが、ひたち国際大道芸出演を希望しています。このことは、工業生産都市として世界に知られた日立市を、文化都市として発信し続けた、日立シビックセンターの大きな実績と確信しています。

ひたち舞祭

仲間とのダンスが、子どもたちに笑顔を生み、思いやりや感謝の心を育てます。

ひたち舞祭（まいまつり）は、満開のさくら並木の下で踊れるお祭りとして、全国から舞祭チームが参加します。市内の子どもたちも、全国のチームと踊れるこのお祭りのために、練習に熱が入ります。

地元に縁のあるメロディや言葉を取り入れた現代のダンスミュージックと、様々なダンスジャンルの要素が入った振付による各地域のオリジナル曲で踊り、子どもたちが輝きとパワーを発して、子どもたちをサポートする大人たちや観客を感動に包み込みます。

平和通りでのパレード演舞。小さな子どもたちが年配ダンサーと共演しました。（平成 21 年）

新都市広場会場で行われた参加全チームによる総踊り。グランプリ（コンテスト）の前に各チームとの交流を深めます。（平成 22 年）

オープニングの総踊りでひたち舞祭の曲を市民のみなさんがリードをとって踊りました。（平成 24 年）

少人数によるユニットで競い合う「Hi- 杯」（ハイ杯）。チームリーダーの育成を目的に行われます。（平成 25 年）

さくらが満開の YOU! ME! ON! St.（平和通り）会場で踊る舞祭チーム。自然に笑顔が溢れ出します。（平成 26 年）

ひたち舞祭グランプリの表彰式。チャンピオンフラッグが授与されました。（平成 27 年）

工都から光都に。
光で幻想的な世界を生み出す日立の冬の風物詩

新都市広場を中心に日立駅前周辺を彩ってきたヒタチスターライトイルミネーション。点灯期間中は、市内外からたくさんの人々が訪れ、冬の夜に、光に包まれた賑わいが生まれました。中心的存在となるメインツリーは、折に触れて装いを変え、様々なオブジェや彩られた木々と共に心温まる場所を作ってきました。併せて開催する点灯セレモニーやキャンドルを使ったイベントでは、子どもたちが参加し、夢が語られ、コンサートでは多くの市民が出演するなど、人々とともに歩み続けています。

イルミネーションが始まった平成 12 年。華を添えたクリスマスコンサート。会場内に素敵な歌声が響きました。

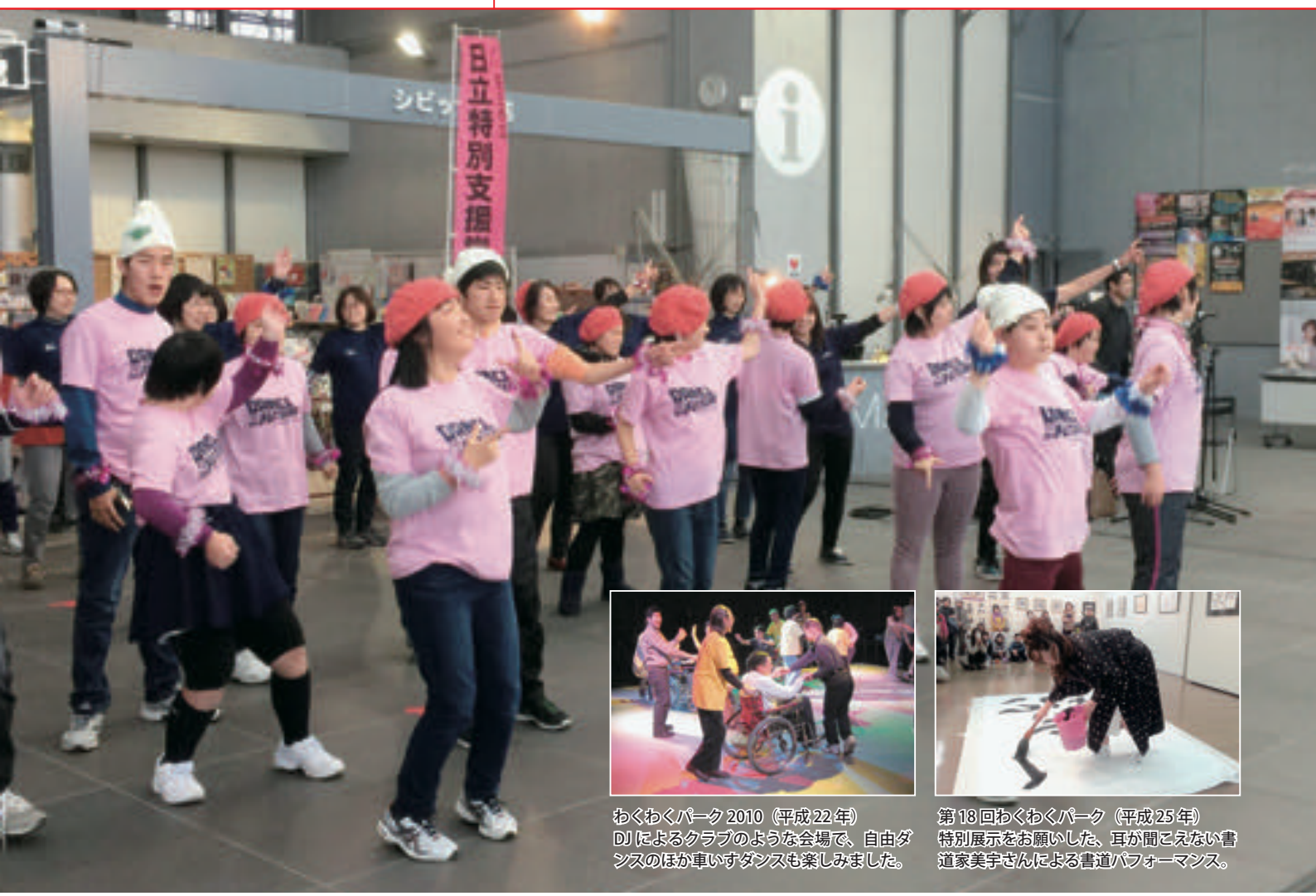
ゴールドクレストの緑と温かい光のコラボレーションが特徴的だった、最初のメインツリー。（平成 15 年）

メインツリーの装いを新たに、その頭上を華やかな花火が彩ります。人々を魅了し、感動の声が聞こえました。（平成 16 年）

鮮やかな八角錐のツリーを中心にして、子どもたちの夢が描かれたキャンドルの炎が、優しく揺らめきました。（平成 18 年）

高さ 13 mの天然のもみの木が新都市広場に登場。自然の温かさが融合し、より優しい世界を生み出しました。（平成 24 年）

無数のシャボン玉が日立の夜空に飛び立ちます。たくさんの子どもたちが集まり、シャボン玉を追いかけ、笑顔あふれるひとときです。（平成 25 年）



わくわくパーク 2010（平成 22 年）
DJ によるクラブのような会場で、自由ダンスのほか車いすダンスも楽しみました。

第 18 回わくわくパーク（平成 25 年）
特別展示をお願いした、耳が聞こえない書道家美宇さんによる書道パフォーマンス。

障がいを越えた共生社会を目指して

12月３日から９日は、「障害者週間」です。それに併せて開催している「わくわくパーク」は、芸術文化をとおして、障がい者と健常者が垣根を越えて共に楽しめる内容となっています。その中で行っている「ふれあい・夢・美術館」は、展示部門として、障がい者施設やグループの皆様の作品をはじめ、障がいを持ちながらも芸術性の高い絵画や書などを製作している方々の作品を紹介しています。

また、音楽やダンスなどの発表の部門も設け、障がい者施設やグループが、日ごろの練習の成果を披露すると共に、数多くの健常者の団体が参加し、互いに交流し、障がいに対する理解を深める催しとなっています。

わくわくパークも 20 周年

障がい者文化交流を進める会　村田つよし

日立シビックセンター開館 25 周年おめでとうございます。

『企業城下町』と言われる日立市が『企業城下町』で終わらない街づくりを多方面で築き上げてきた発起人、そして続けられる基盤を持つのが「日立シビックセンター」だと私は思っています。

シビックセンターの 12 月初めのイベントが、「わくわくパーク」になります。「障がい者と健常者との間にある見えない壁を壊して、お互いに安心・安全。そして優しく助け合える街づくり」を目指して始まったイベントです。

「障がい者との交流」を重視すべく「障害の有無に関係なく一緒に楽しもう」という事で現在の形となっています。マンネリ化を避ける為に試行錯誤を重ね、20 年目のわくわくパークが先日無事、終了しました。

わくわくパークが「日立シビックセンターの３大行事」と言われる様に、進化していく事でしょう。そして、障がい者と健常者の壁が取り払われる日が来るのを切に願います。

アジア諸国の民芸品等がたくさん並び、来場者に人気です。

外国人の皆さんが、日本での文化、風習の違いなどについて意見を発表します。

世界各国の文化に触れる

ひたち国際文化まつりは、国際交流の輪を広げていくために、日立市内で国際交流や教育に携わっている団体や、市民によって創られています。

この日は、日立シビックセンターが多文化空間に変化。世界各国の文化をとおして、多くの人々との交流する場が広がっています。

主催のひたちとアジアの文化交流をすすめる会では、アジア諸国の紹介などをしながら、普段感じることのできないアジア文化の魅力をお伝えしています。

国際文化交流活動の更なる活性化を願って

ひたちとアジアの文化交流をすすめる会　会長　小澤　紀夫

日立シビックセンター開館 25 周年にご祝辞申し上げます。

私ども「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」は、日立シビックセンターのアジア太平洋芸術文化交流事業の一環として、シビックセンターを事務局に平成 9 年に発足し、現在 18 年目を迎えております。設立目的は、「アジア太平洋を中心とした文化圏に息づく芸術や芸能に触れる機会をつくり、アジアにおける日本、そして日立を見つめる」ことや「市内や近隣に在住している外国人との交流を図り、日立市における国際交流を推進する」ことです。

設立当初より年度毎にテーマ国を決めて種々活動しておりますが、設立 7 年目の平成 15 年から日立市内の国際文化交流団体や各大学・高校等の協力を得て「ひたち国際文化まつり」を中心的な活動として開催し、今年度で 13 回目を迎え来場者も増えて来ております。

日立市内には千数百人の外国人の方々が生活しており、留学生・技能実習生は増加することが予想され、経済のグローバル化と相まって国際文化交流活動の重要性・必要性は高まっております。関係各団体・会員の皆様と協力し日立市における国際文化交流の輪が少しでも広がるよう今後も継続して活動して参りたいと思います。

茶会に招かれたときに～野点の趣向を楽しむ～・自然のつるで編む花かご、
子どもレストラン～こどもによる家族のためのクリスマスレストラン～　ほか

食やクラフトの新しいスタイルを体験して、暮らしの楽しみ方がアップします。

茶室、和室、料理室があるシビックセンターならではの講座がシビックサロンです。改めて学び直したり、新しいことにチャレンジすることで、生活の楽しみの幅を今までより広げてより楽しく過ごしていけるように、新しいエッセンスが含まれた講座を工夫してきました。

自然のつるで編む花かご（平成 18 年）
自然素材のつるを編んでかごをつくり、花を生けました。

こどもレストラン～こどもによる家族のためのクリスマスレストラン～（平成 24 年）
子どもたちが自分の料理で家族をもてなしました。

「記憶ーそのとびらのむこうへー」藤原ゆみこ展、
アトリウム装飾「コブタと遊ぼう！展覧会」・アトリウム装飾「空」　ほか

誰もが気軽に芸術に触れ、体験できます。

The デザイン事業では、芸術と市民が接する機会を提供する場所として、さまざまな作品を紹介してきました。アトリウム装飾では、来場者の方には構えずに作品に接することができ、これまでの作家さんからは、美術館のように目的を持って来る限られた人だけでなくいろんな人に見て接してもらえる機会になるとお話いただいています。また、展示内容から財団の各種事業への入口となる企画内容も取り入れて紹介しています。

「記憶ーそのとびらのむこうへー」藤原ゆみこ展（平成 19 年）
作品展示のほかに日本画のワークショップも開催しました。

アトリウム装飾「空」（平成 27 年）
科学館のイベントに合わせて、助川中学校美術部の協力で作品の展示を行いました。

ロシア・バレエ・フェスティバル 2001
―日露ジョイント・バレエコンサート―　ほか

多彩な舞台芸術を楽しんでもらえました。

劇場シリーズ事業では、演劇を平成６年から平成 14 年までの９年、バレエを平成 12 年から平成 17 年までの６年、シャンソンを平成 12 年から平成 13 年の２年実施してきました。

演劇やバレエでは、市民の参加による公演や小学生や高校生を対象にしたワークショップを開催し、市内の演劇やバレエの振興と各団体のネットワークづくりにつなげることができました。シャンソネットの夕べでは、シャンソンの公演により今までにない雰囲気を会場に作り出し、新しい公演を提供することができました。

シビックバレエアカデミー～英国編～（平成 14 年）
世界で活躍された講師の指導に、市外県外からも参加がありました。

「セロ弾きのゴーシュ」ちらし
こどもの劇場ワークショップ Vol.3
「セロ弾きのゴーシュ」だぞ
（平成 14 年）
プロ劇団の役者さんから劇の作り方を学びました。

21 世紀への夢炎（ゆめび）
アートフェスティバル～新都市広場に世界の建築物がやって来た～・おきらくライブ　ほか

まちの若い力が活躍しました

10代や 20 代の青少年を中心として平成 9 年に結成された「イベント　PROJECT TEAM やあ」が、新都市広場を利用して、まちの賑わいづくりのためにさまざまなイベントを企画し開催しました。

蜜蝋で作ったキャンドルを広場に一面に、円形に並べたイベント「21 世紀への夢炎」は、寒い冬の夜に温かくも心和む雰囲気を広場に作り上げることができました。

アートフェスティバル（平成 11 年）
子どもたちや高校生が乗り合いバスに「自然・生き物」をテーマに絵を描きました。

おきらくライブ（平成 12 年）
多彩なジャンルのライブをフリーマーケットと同時に開催。

科学館担当

全国の実験名人が日立に集合！
サイエンスショーを通して科学の魅力を伝えます。

日立サイエンスショーフェスティバルは、サイエンスショーを通して子どもたちの科学への興味関心を高めることを目的に、平成５年から毎年開催しています。

北は北海道から南は九州まで、全国から集まった実験名人の実演のほか、市内中学校・高校の科学部の実演、実験体験ブース、工作ブースなど、まさに一日中科学を楽しむことができる「科学のお祭り」です。

サイエンスショーの実演では、実験が成功すると大きな歓声が上がり、温かい拍手が送られます。いろいろな体験ブースでは、好奇心あふれる子どもたちが目を輝かしながら実験や工作を体験することができます。大人も子どもも一緒に科学を楽しんで、会場内は一日中笑顔があふれます。

全国の実験名人によるサイエンスショー。ハラハラドキドキの連続。（第 23 回）

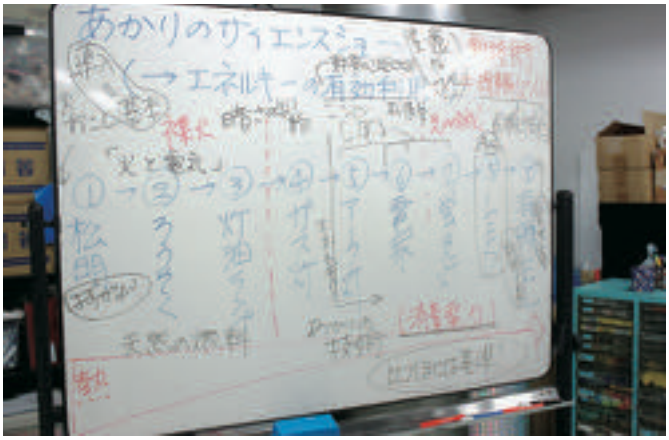
自分で実験したり、工作が楽しめる科学実験体験ブース（第 22 回）

科学実験の知識や技術が日立に集まり、多くのサイエンスショーが生まれました。

全国の科学館関係者が集う日立サイエンスショーフェスティバルでは、サイエンスショーのスキルアップを目的とした研修会・分科会を行っています。シャボン玉や風船など具体的なテーマにおけるネタの情報交換、シナリオの構成、実験道具の開発など、テーマは多岐にわたります。参加者の知識・経験をもとに活発な議論が行われ、その中で生まれた新たなサイエンスショーが日立市内はもとより、全国の科学館などで子どもたちに向けて披露されています。

空気がテーマの研修では、各々の科学館で行っている実験を紹介しながら、より魅力的な実験方法を議論しました。

せんたくばさみなど身近な道具を使って、子どもたちにとって魅力的な「遊び」をサイエスショーに取り入れる研修を行いました。



あかりのサイエンスショーの制作では、全体のコンセプトや実験の流れ・見せ方について参加者が活発に意見を交わしました。

日立理科クラブの皆さんの協力により、振動や音をテーマにした実験道具の開発及び活用方法について研修しました。

25 周年に寄せて

独立行政法人国立科学博物館名誉研究員　佐々木勝浩

日立シビックセンター科学館が開館して早くも４分の１世紀が経過したという。開館して間もない平成５年（1993）に、一人の職員の発案で最初のサイエンスショーフェスティバル、通称ショーフェスが実施された。

当時、まだサイエンスショーに取り組む科学館は少なく、それぞれの館の担当者は試行錯誤しながら実施しなければならなかった。サイエンスショーの材料や方法だけでなく、形態、理念などまだ手探り状態だったからである。ショーフェスの参加者は、各館でサイエンスショーを行っている意識の高い実務担当者で、毎回、互いのショーを論評して喧々諤々議論が行われた。数年経った頃、ショーフェスは新たなプログラムの企画を公開して、目の肥えた各館の担当者に評価や意見を求めるテストの場となっていた。また、ショーフェス参加者同士に横の繋がりができ、常時相互協力の体制が生まれた。実施と議論を繰り返しながらサイエンスショーは徐々に方法論を確立させ、全国の科学館の事業として定着し、発展してきた。科学館のサイエンスショーが、子ども達をはじめ幅広い年齢層の大人達の科学リテラシー向上に一役も二役も買っていたことは疑いのない事実で、主導的立場でそれに取り組んでいたのが日立シビックセンター科学館だったのである。

ショーフェスの歴史は、ほとんど科学館の歴史と重なる。日本のサイエンスショーの発展は日立に負うところが大きいことは、科学館関係者の誰もが認めるところである。継続は力なり。しかし継続することには、多くの障害や困難があったことと推察する。日立シビックセンター科学館と、担当者の方々のご尽力に対し、ショーフェスに関わらせていただいた１人として、最大の賛辞と謝意を表する次第である。

夏休みには様々なテーマで特別展示を開催。家族揃って科学の不思議を体験！

毎年、夏休みの期間中は、ひとつのテーマに沿った特別展を開催しています。特に人気のあるテーマは、「恐竜」の化石の展示、「錯覚」などの視覚トリックを用いた展示です。

見るだけでなく、体で科学を体感できる展示を多く取り入れたり、作った工作をお土産に持って帰ることができたりと、体験重視の展示会を実施しています。

平成 27 年度「見てビックリ！視覚トリック展〜オバケのせいじゃないよ〜」
「まっすぐ歩けない？オバケトンネル」。錯覚の効果で体がよろけてしまいます。

平成 27 年度「見てビックリ！視覚トリック展〜オバケのせいじゃないよ〜」
子どもたちに大人気の工作「オバケスライム」。紫外線に当たると色が変わります。

平成 26 年度「恐竜たんけんランド」
化石クイズラリーや飛び出す３Ｄ恐竜ポスターが人気でした。

平成 26 年度「恐竜たんけんランド」
本物の化石（アンモナイト）がお土産になる「化石発掘体験コーナー」

平成 25 年度「ふしぎトリックアート展」
トリックアートの前で多くの人が記念撮影を行っていました。

平成 25 年度「ふしぎトリックアート展」
めがねをかけると、目の前に虹がたくさん見える「レインボーめがね」の工作を体験しました。

国際宇宙ステーション長期滞在ミッション報告会「宇宙で感じたこと、今伝えたいこと。」
～古川宇宙飛行士からのメッセージ～、はやぶさ帰還カプセル展示

東日本大震災後の日立市民に夢と勇気を与えてくれた

古川宇宙飛行士のミッション報告会では、宇宙での生活など興味深いお話をたくさん聞くことができ、会場から活発な質問が出ました。また、報告会終了後には、日本宇宙少年団日立シビックセンター分団の団員たちとの交流会を行い、一人一人の質問に丁寧に答えていただきました。

数々の苦難を乗り越えて地球に帰還した小惑星探査機はやぶさ。その本物のカプセルを間近に見ることができ、多くの方から感動と称賛の声をいただきました。

古川宇宙飛行士と日本宇宙少年団団員たちとの交流会。あこがれの宇宙飛行士に会えて、みんな感激しました。

はやぶさ帰還カプセル展示には、子どもからシニアまで幅広い年代の方にお越しいただきました。

来て見て触れて！
楽しいイベントがいっぱい

春休み、ゴールデンウィーク、正月など、季節ごとに巡回展や特別イベントを開催しています。ジャンルは宇宙や深海、光、パズルなど様々で、パネルや資料の展示だけではなく、体験コーナーやワークショップなど「見て、触れて、学ぶ」ことができるように工夫しています。また、抽選会や特別イベント時だけの工作を行ったり、過去には開館時間を延長して「夜の科学館」を開催したりと、普段とは違った科学館を楽しめます。

平成 26 年度の春休みイベント「空飛ぶチカラ」では、科学館フロアでドローンのデモ操縦を行いました。

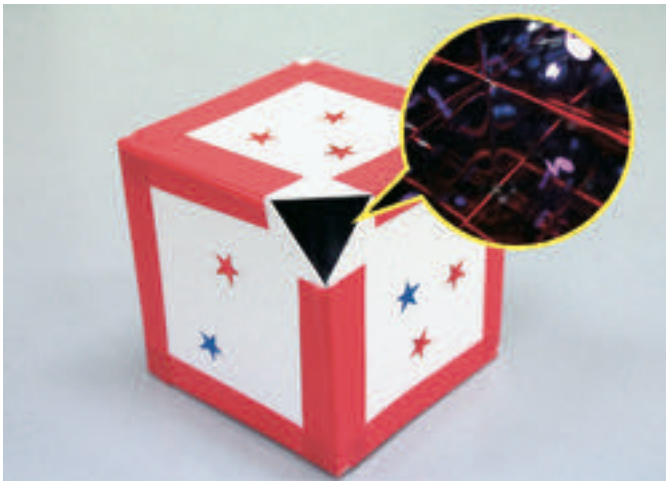
かみね動物園のスタッフが科学館を訪れ、鳥が飛ぶ仕組みについて教えてくれました。

身近な材料であっとおどろく科学体験！

科学館に遊びに来た子どもたちに、科学の不思議さや面白さを体験してもらうために、平成７年度から始まりました。材料はスーパーやホームセンターなどで買える身近なものから、時には普段なかなか見ることが無いような材料も使います。自分で作った工作が光ったり、色が変わったり、高く飛び上がったり…。驚きや不思議だと思う気持ち、そこから生まれた子どもたちの科学の芽が大きく育つことを期待してやみません。

工作風景

スーパーボールが床に衝突する時の衝撃を利用したロケット。
作るだけでなく、その場で遊べる工作もあります。



鏡のついた紙を箱の形に組み立てて、穴を開けてセロファンを貼ると…。不思議な世界が見える万華鏡の完成！

紫外線ストラップ
太陽の光（紫外線）にあたると色が変わるビーズを使ったストラップです（左：光にあたる前、右：光にあたった後）。

化石レプリカ
お湯で温めると柔らかくなるプラスチックを使って、アンモナイト化石のレプリカ（複製品）作り。

かおりのビーズ
水を含むと元の数百倍の体積に膨らむ高吸水性ビーズに色や香りをつけると芳香剤のできあがり！

科学館の８階フロアを会場にして２種類の工作メニューを用意しています。

スタッフが作り方を教えるだけでなく、科学的な要素の解説をしながら進めます。

科学教室・スターウォッチング

幼児から大人まで、さまざまな方に天文や科学を体験する機会を提供しています。

「スターウォッチング」では、幅広い年齢層の方に本物の星に触れていただいています。四季を通していろいろな星座を観望すると共に、天体望遠鏡で見る月のクレーター、土星のリング、木星の縞模様、オリオン大星雲、すばるなどの星雲星団は、宇宙の神秘を感じさせてくれます。

「科学教室」は、科学の楽しさを感じてもらう幼児対象の「はじめてのかがく」、初めて半田付けを体験する小学生向けの「電子工作教室」、そして、大人を対象として、一つのテーマを深く掘り下げて、専門家がわかりやすく講話を行う「大人のための科学教室」を実施しています。

ときには日本人宇宙飛行士が滞在する国際宇宙ステーションも見ることができました。

「電子工作教室」では、半田ごての扱い方や電子部品についての知識を学んでいただきました。

学校や他施設に出向いて行った観望会にも、親子を中心に多くの方にご参加いただきました。

「はじめてのかがく」では、ストローや紙コップなど、身近な物を材料にした工作を楽しんでいただきました。

祝 25 周年

シビックサイエンススタッフ　八重座　明

25 周年おめでとうございます。茨城県の県北地区には、科学館に類似するものは無いと思います。したがって、日立シビックセンター科学館は県北の青少年の科学の振興に大変重要な立場を担ってきたものと推察されます。

私が主にかかわってきたのは、シビックセンター屋上などで行われるスターウォッチングです。天体望遠鏡を設置し、実際の星をお客さんに見てもらおうという催しです。多いときには 100 人以上のお客さんが集まり、一人ずつ望遠鏡を覗くので、なるべく多くの望遠鏡とスタッフが必要となります。そこで、私たちボランティアスタッフが自分の望遠鏡を持参し台数を増やして対処しています。なにより嬉しいのはお客さんの「すごい！」「綺麗！」などの感嘆の言葉を聞いたときです。それをきっかけにお客さんが天文を好きになり、科学振興に役立っていければ何よりだと思っております。

今後もできる限りボランティアとして協力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

毎年夏に行う「星空観察キャンプ」では、本物の星空を見上げました。

科学・天文の体験を通して、宇宙飛行士の卵が誕生することを目指しています。

日本宇宙少年団日立シビックセンター分団は、小学３年生から高校３年生までの団員で構成されています。月に１度の活動では、天体望遠鏡を使って天体観察を行ったり、科学実験や工作などを行っています。また、夏の星空観察キャンプでは、夏の星座やペルセウス座流星群を観察します。このような体験を通して、科学や天文に興味を持ち、子どもたちが宇宙飛行士を目指すきっかけとなるような活動を続けています。

JAXA と共同で行っている「コズミックカレッジ」では、さまざまな宇宙実験を体験しました。（写真は宇宙飛行士の船外活動を模擬体験している様子）

実験工作では、天秤ばかりを作って身の回りの物の重さを測ってみました

平成 27 年度の活動では、口径 10㎝の反射望遠鏡を製作し、天体望遠鏡の仕組みを学び、月や惑星を観察しました。

化学実験では、硝酸銀、アンモニア、水酸化ナトリウムを混ぜて、ガラス瓶の内側が鏡のようになる銀鏡反応を観察しました。

創立 25 周年を祝う

日本宇宙少年団日立シビックセンター分団長　戸波　宗彦

日立市に日本宇宙少年団の分団が誕生したのはシビックセンターが新設されて間もなく、宇宙飛行士第一号の毛利衛さんが記念講演に来訪されたのをキッカケに、「日立シビックセンター分団」が誕生しました。

当時、全国的な「宇宙開発」ブームに乗って JAXA を推進母体として“分団”が各地に次々と誕生しましたが、中でも当分団はしっかりした運営・財政基盤の上に、最新式のプラネタリウムを中心に種々の科学体験が出来る“科学館”を併設する、という恵まれた環境を享受し、お蔭様で全国でも有力な分団となり、毎年の新団員募集に当たっても入団希望者が多く、一部希望に応えられない状態が続いている状態です。日立市の行政、教育、産業、市民各層が温かいサポートを続けて下さり、我々宇宙少年団をここまで守り育てて戴いたことに対し改めて厚くお礼を申し上げるとともに、今後益々のご発展を心から祈念しています。

「少年・少女に科学の喜びを」を合言葉に、私どもスタッフ・ボランティアは一丸となってそれぞれの専門知識を生かして将来の宇宙飛行士を目指す団員たちに大きな夢や希望を与えるよう、一層努めて参りたいと思っています。

天文講演会「宇宙論最前線～宇宙望遠鏡で探る宇宙誕生の謎」

宇宙 138 億年の歴史を見つめる

天文の魅力を発信し、共有するための生涯学習事業として平成 27 年からスタートした天文講演会です。記念すべき第 1 回は宇宙年齢の測定や宇宙組成物質の割合などを解き明かした WMAP プロジェクトのメンバーの 1 人である小松英一郎さん（マックス・プランク宇宙物理学研究所所長）に、プラネタリウムの星空解説を交えながら「宇宙誕生の謎」を熱く語っていただきました。

質問コーナーでは熱心に聴き入ったお客様たちから多種多様な質問が飛び交いました。

講演会終了後にはサイン会を行いました。

プラネタリウムと多彩なジャンルとのコラボレーション

プラネタリウム施設である天球劇場の「劇場」としての側面を活用するために平成 19 年から開始した企画です。雅楽・ネイチャーサウンド・ハワイアンミュージック・三味線・JAZZ などの生演奏の背景に、美しい星空や壮大な宇宙が広がり、非日常空間を紡ぎ出しました。他にも、演劇やオペラ、朗読、詩、講演会、お笑いなど、多くのジャンルとプラネタリウムとがコラボレーションし、天球劇場でしか味わえない独自性の強い公演を提供し続けました。

第 1 回目は劇団ワンズフィルが制作したプラネタリウム演劇。天球劇場の特性を上手に活用していただけました。

急な傾斜の客席は、プラネタリウムならではの造りと言えるでしょう。多くのお客様に足を運んでいただきました。

科学の楽しさを各地に届ける アウトリーチ活動

シビックセンターを飛び出して、市内外の学校や幼稚園、保育園に科学の楽しさを伝える活動として、平成 24 年から本格的に始まりました。目の前で科学実験を実演する「サイエンスショー」や工作体験、天体望遠鏡を使って本物の星を見る「スターウォッチング」を通して、多くの子どもたちに「科学」に接する機会を提供しています。

本格的な天体望遠鏡を使って、本物の星を見ると、広大な宇宙の神秘への興味が湧いてきます。

ここは茨城空港の搭乗手続きカウンター前です。こんなところでもサイエンスショーを実演しています。

市民と科学を繋ぐ スペシャリスト

シビックサイエンススタッフは、日立シビックセンター科学館を主体とし、科学思想の普及・啓発を目指した活動を行っているボランティアグループです。展示物の解説、科学工作の指導、宇宙少年団のリーダー、天体観察会の補助、サイエンススタッフ発案のイベントなど、それぞれの専門分野を生かして活動しています。

サイエンススタッフ発案の企画として、「数学」「天文」をテーマにした教室を開催しています。

科学館の中にある「鉄道模型ジオラマ」は人気の展示物の１つです。土日祝日を中心に、サイエンススタッフが実演を行っています。

輝く 21 世紀の夢を
日立市から世界に発信

日立市発信国際シンポジウムは、平成３年２月から平成 15 年まで、11 回にわたって開催されました。宇宙飛行士、科学者、アーティスト、ミュージシャンなど、多彩な出演者の方々から、夢を持ち続けることの大切さや、未知なるものへ挑戦することなどを自由に語っていただきました。そこには 21 世紀を生きるすべての人へ向けた、希望に満ちたメッセージがありました。

第 9 回出演　チャールズ・コンラッド氏。アポロ 12 号の船長として人類史上２度目の月面着陸に成功。

第 10 回出演　フレデリック・ブルーワイラー氏（カトリック大学教授　天体物理学者）と松本零士氏（漫画家）。

未来の ONE SCENE

平成3年から平成19年の17年に渡り開催したコンテストです。年々向上するパソコンのイラスト関連ソフトを駆使して、多くの若者たちが未来への夢を描きました。平成16年の第14回からは、入賞作品をインターネット上で公開するとともに、パティオモールでのストリート展示を行いました。全国から寄せられた作品たちは、パソコンを飛び出し、市民に「未来の ONE SCENE」を届けてくれました。

第16回の総合グランプリは佐賀県の小学3年生が受賞しました。

第14回から、入賞作品を屋外に展示しました。

経営企画担当

広報・宣伝

時代のニーズにあわせて、多種多様な媒体で情報発信を行う。

財団が主催する自主企画事業を中心に、多彩な紙面構成に挑戦し発行。

ホームページの運用
定期発行物では掲載できない公演の詳細情報や、施設の利用方法などを掲載してます。

ソーシャルメディアサービスの運用
タイムリーな情報を発信、ファン層拡大のツールとして活用しています。

沿　　革

昭和 51 年（1976 年）
　4 月　日立駅前開発基本構想の作成に着手
昭和 52 年（1977 年）
　3 月　基本構想まとまる
昭和 56 年（1981 年）
　12月　日本鉱業㈱業務用地の開放について本格的な話合いはじまる（用地交渉）
昭和 57 年（1982 年）
　8 月　日立駅前開発整備計画の作成着手
昭和 58 年（1983 年）
　3 月　日本鉱業㈱との話合いまとまる（土地の売買契約締結）
　8 月　能舞台建設請願（5,020 名署名）
　12月　日立駅前開発調査委員会から整備計画報告
昭和 60 年（1985 年）
　3 月　敷地クリアランス事業完了
　4 月　都市施設等の都市計画決定
　8 月　都市デザイン調査はじまる
昭和 61 年（1986 年）
　1 月　高度情報センター調査はじまる
　9 月　シビックセンター建設検討会議設置
　10月　施設立地誘導委員会設置
　　日立新都市広場アイデア募集
　11月　土地利用審査委員会設置
　12月　専門店等進出応募受付
昭和 62 年（1987 年）
　1 月　商業施設街区・ホテル街区事業化コンペ実施（62．1 ～ 62．4）
　　日立シビックセンター設計コンペ実施（62．1 ～ 62．5）
　2 月　新都市拠点整備事業　「総合整備計画」建設大臣承認
　7 月　コンペの入選者決定
　9 月　大型店・ホテル用地売買契約締結
　10月　大型店の出店申し出
　12月　地域冷暖房システムの採択
昭和 63 年（1988 年）
　2 月　ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業の指定
　3 月　日立新都市広場建設工事着工
　　日立シビックセンター実施設計完了
　7 月　日立シビックセンター建設工事着工
　8 月　業務施設用地分譲応募実施（63．8 ～ 63.10）
　11月　都市イベント推進調査はじまる
　12月　大型店の出店に係わる事前説明（63.12 ～元．1）
　　業務施設用地分譲公募の入選者決定
　　土地売買契約締結
平成元年（1989 年）
　4 月　大型店の大店法第 3 条届け出
　6 月　大型店事前商調協開始（元．6 ～元 .12）
　12月　地域冷暖房供給開始
平成 2 年（1990 年）
　3 月　㈶日立市科学文化情報財団設立
　　勤労福祉会館竣工
　　日立商工会議所会館竣工
　7 月　日立新都市広場供用開始
　　「余暇の過ごし方」アンケート調査
　8 月　第 1 回「交流サロン懇談会」発足
　9 月　東京ガス㈱日立支社ビル竣工
　　「講座や文化事業に対する要望」アンケート調査
　11月　日立シビックセンター一部供用開始
　　組立式特設能舞台完成
　　音楽ホールこけら落し（8 日）
　12月　科学館・交流サロン・情報プラザ供用開始

オープンまでの経緯

	日立新都市広場	日立シビックセンター	土地区画整理事業
昭和 51 年		駅前開発基本構想着手	
52		基本構想まとまる	
53			
54			
55			
56		用地交渉（日本鉱業㈱業務用地の開放について）	
57		駅前開発整備懸隔着手	
58		日本鉱業㈱との話し合いまとまる	
59			
60		都市デザイン調査開始	
61	新都市広場 アイデア募集 実施設計		建物移転除去 基盤工事 （道路） （上下水道）
62	日立新都市広場（多目的広場・多目的ホール・地下駐車場）建設工事着工	（設計コンペ） シビックセンター設計コンペ （実施設計）	（CAB 等）
63	建設工事	シビックセンター建設工事着工 （建設工事）	
平成 元 年			
2	日立新都市広場竣工 「まちづくり協定策定協議会」発足 日立新都市広場（多目的広場・多目的ホール・地下駐車場）供用開始	㈶日立市科学文化情報財団設立	
3	日立新都市広場愛称決定 「パティオ日立」		

文化の発信地として

公益財団法人日立市科学文化情報財団は、設立から 25 年に亘り、科学・文化・情報の発信基地として建設された日立シビックセンターを管理運営するとともに、施設の特徴を生かして、日立市に新たな文化を紹介し、育成し、市内外の人々の交流を促進するための事業を展開してまいりました。

事業の進展は、時代の返遷とも重なり、文化活動意識の一層の高まりとニーズの多様化を見るに至り、これに効果的、効率的に応えるには、各関係機関団体等の連携・連帯が求められることから、この度、公益財団法人日立市民文化事業団と合併いたしました。

両財団は、それぞれに設立経緯や目的に基づき事業を展開してまいりましたが、市民を主役とし、より良い文化体験機会を提供することにより、「心豊かなまちづくり」に寄与する使命は共通であります。

新たに誕生しました公益財団法人日立市民科学文化財団は、両財団のそれぞれの特徴と経験を生かし、市民の皆様とともに新たな事業展開を図り、新たな科学・文化を創造し、日立市の明るい未来の実現のために貢献してまいります。

音楽ホール

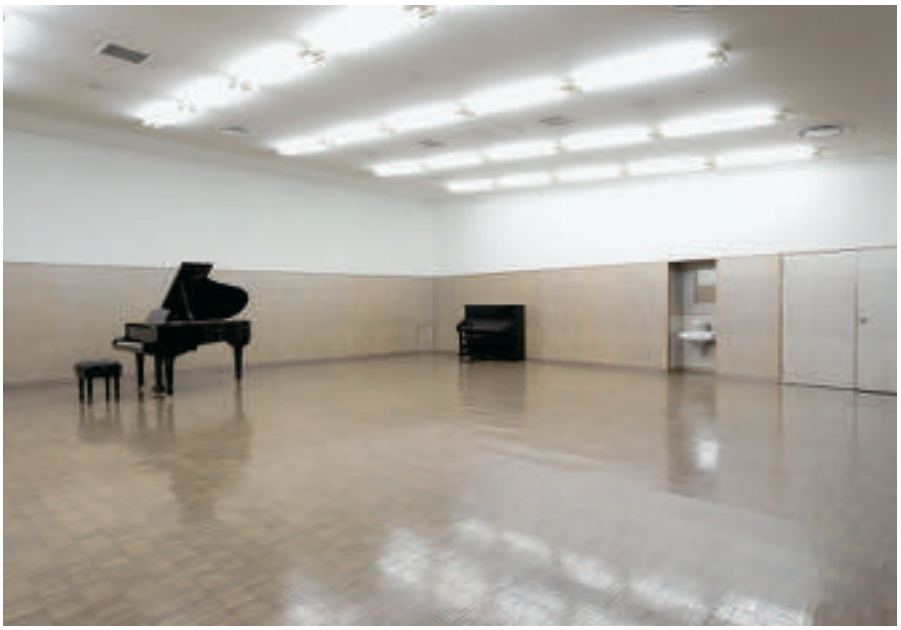
森をイメージしたシューボックス（くつ箱）型の本格的な音楽専用ホールです。

理想的な残響を得るため音響工学を駆使して造られました。

オーケストラやアコースティックなコンサートのほか、講演会やシンポジウムにもご利用いただけます。

多用途ホール

目的に合わせ、さまざまな演出ができるフリーステージを備えた創造空間です。コンサートや演劇、会議、展示会、映画鑑賞会などにご利用いただけます。



音楽室・スタジオ

広さや内装が異なる４つの音楽室とスタジオ１室があり、鏡やグランドピアノを完備した部屋もございます。オーケストラの合奏、合唱やダンス練習など、用途や人数に応じてご利用いただけます。

会議室

最大 108 名まで収容可能な大会議室から少人数対応の会議室まで、セミナーや講演会、展示会、パーティーなど、さまざまな用途や人数に応じてご利用いただけます。

マーブルホール

600㎡の広さを誇るマーブルホールは、床から天井まで大理石をふんだんに使用した多目的ホールです。ステンドガラスと天井の大理石から差す光が幻想的な空間を演出します

ギャラリー

1 階アトリウムから続くギャラリーは、どなたでも気軽に入りやすく、グループ展、個展、展示販売などにもご利用いただけます。

広場

広さ 9,300㎡の新都市広場は、大理石によるテラスとみかげ石でできた広場です。

科学館

科学館には、実際に見て、触れて、体験できる約 130 点の展示物があります。子どもから大人まで科学のおもしろさを発見することができる、体験型の展示フロアです。

天球劇場

天球劇場では、毎日、その日の夜の星座を解説員がご案内いたします。

また、可視化した宇宙を飛行して様々な天体をめぐったり、迫力のドーム映像の番組を上映したりと、様々なプログラムを提供しています。

公益財団法人日立市科学文化情報財団
25年のあゆみ　PDF版

ホームページでPDF版がダウンロードできます。

●日立シビックセンターオープン10周年記念誌　輝くまち“ひたち”　PDF版

●公益財団法人日立市科学文化情報財団25周年記念誌　25年のあゆみ　PDF版

●公益財団法人日立市科学文化情報財団　自主企画事業のあゆみ　PDF版

ホームページ　http://www.civic.jp

公益財団法人日立市科学文化情報財団
25年のあゆみ

発行日　平成 28 年（2016 年）12 月 1 日
発行者　公益財団法人日立市民科学文化財団
〒 317-0073
茨城県日立市幸町 1-21-1　日立シビックセンター内
ＴＥＬ　0294-24-7711　　ＦＡＸ　0294-24-7970